

中学生・高校生の社会的態度に関する縦断的研究 (IV)*

久世敏雄 二宮克美 宮沢秀次¹⁾
後藤宗理²⁾ 浅野敬子³⁾ 池田博和
伊藤義美⁴⁾

I 問 題

われわれは、これまで6年間の縦断的調査データをもとに、中学生・高校生の社会的態度の発達過程を明らかにしてきた(久世ほか; 1979, 1980, 1981)。保守的、革新的、大衆社会的態度という3つの側面から捉えた社会的態度の6年間の発達過程について、これまで得られた結果から、その全般的傾向を次の3点にまとめることができる。

①保守的態度と革新的態度は、男女とも大きな変動はなく、全体として一貫した傾向を示している。

②大衆社会的態度は、男女とも中学から高校にかけて次第に強くなる傾向がある。そして、この傾向は一貫したものである。

③3つの各態度の関係は、6年間を通じて男女を問わず、保守的態度と革新的態度の間には負の相関関係が、保守的態度と大衆社会的態度の間には正の相関関係がみられる。

これらの知見は、昭和47年度から昭和54年度までの過去8年間にわたる縦断的調査データの中で、6年間ともに有効な140名(男子70名、女子70名)の縦断的データの分析にもとづいて明らかにされた。今回の報告では、過去8年間に蓄積したデータの中から、中学において3年間の有効な縦断的データと高校において3年間の有効な縦断的データを収集し、中学ならびに高校の各3年間にわたる社会的態度の発達過程を分析し検討することを目的とする。このさい、各社会的態度の項目水準の分析もあわせ行なうことにする。

* 本研究の資料分析のための計算は、名古屋大学大型計算機センター FACOM M-200 によった。

1) 市邨学園大学

2) 名古屋市立保育短期大学

3) 中京女子大学

4) 名古屋大学教養部

II 方 法

1. 社会的態度測定の問題紙

社会的態度測定のための問題紙は、保守的、革新的および大衆社会的態度として用意されたそれぞれ13項目、計39項目の問題(表1)から構成されており、それらについて、非常に賛成、賛成、賛成とも反対ともいえない、反対、非常に反対の5点尺度で評定を求めた。被調査者の各項目への反応に対して、非常に賛成の場合5点、賛成の場合4点、賛成とも反対ともいえない場合3点、反対の場合2点、非常に反対の場合1点を与え、3つの社会的態度ごとに合計値を算出した。以下、態度得点という場合はこの合計値をさし、数値が大きいほどその態度が強いことを意味している。

2. 被調査者

今回分析に用いた資料の被調査者は、これまでと同様に、名古屋大学教育学部附属中学校および高等学校の生徒である。中学の3年間有効なデータは、昭和47年度に中学へ入学し昭和49年度に中学を卒業した男女生徒、さらに昭和48年度、49年度、50年度、51年度および52年度にそれぞれ中学へ入学し、昭和50年度、51年度、52年度、53年度および54年度にそれぞれ中学を卒業した男女生徒のうち、中学1年から中学3年まで毎年もれなく調査を受けた合計351名(男子178名、女子173名)の資料である。高校の3年間有効なデータは、中学の場合と同様に、昭和47年度、48年度、49年度、50年度、51年度および52年度にそれぞれ高校へ入学し、昭和49年度、50年度、51年度、52年度、53年度および54年度にそれぞれ高校を卒業した男女生徒のうち、高校I年から高校III年まで毎年もれなく調査を受けた合計527名(男子275名、女子252名)の資料である。

III 結 果

今回報告するデータは上述の6つのコホートから構成されているが、これら6つの群間の各社会的態度得点を

表1 質問項目

項目番号	項目	項目番号	項目
1	国の政治は政治家にすっかりまかせた方がよい	22	政治をよくするためには、もっと進歩的な人から多くの代議士を選出すべきである
2	女が政治などに口だしすべきでない	23	家庭内の仕事は男女平等に分担すべきである
3	結婚は家柄を重んじなければならない	24	「方角が悪い」などということはまったく信用しない
4	伝統や習慣は尊重すべきである	25	結婚式などの儀式はなるべく簡素化するのがよい
5	世間をわたるには義理や人情が最も大切である	26	家庭では子どもの意見も大人の意見と同等に尊重されるべきである
6	長男が家をつぐのは当然だ	27	流行語などはよく知っていないとはずかしい
7	親孝行は子どもの義務である	28	労働者や大学生のストライキやデモ活動などは関心がない
8	目上の人にはもっと敬語を使った方がよい	29	みんなが見ているテレビ番組を見ていないと、とりのこされる気がする
9	学校で定めている校則にはどんな場合にも従うべきである	30	国の法律が望ましいものかどうか考える必要はない
10	世の中の秩序を守るために上下関係はなくてはならない	31	中・高校生の時代には政治の問題など考えるよりレジャーを楽しんだ方がよい
11	日本は天皇を中心にまとまるべきである	32	理論よりフィーリングやムードが大切である
12	デモやストでさわぐのは民主国家の恥である	33	誰が衆議員の選挙で当選しようと日本の政治はかわらないと思う
13	家庭では父親がすべての実権をにぎるのが望ましい	34	今の世の中では平凡な家庭の中にささやかな幸福を求めた方がよい
14	個人の自由は尊重すべきである	35	共同募金や歳末助け合い運動があるなるべくさけるようにする
15	正しいことであれば世間体など気にすべきでない	36	ベトナム戦争など日常生活とかけはなれた政治問題など考えるのはめんどうだ
16	いくら恩義のある人でも筋道のとらない頼みごとは断った方がよい	37	いつの世でもお金がなければ幸福にはなれない
17	社会のために正しいことであるなら親の反対をおし切っても行動すべきである	38	皆と同じような持物や服装をしていないとひげめを感じる
18	いくら伝統だからといっても不合理なことはやめるべきである	39	公害問題は被害者と加害者だけの問題である
19	デモやストをするのは労働者の当然の権利である		
20	先輩の意見でも、まちがっていると思えば、納得できるまで議論する		
21	男女の交際は全く自由であり、まわりの人がとやかく言うべきでない		

(注) 項目番号1～13は保守的態度項目、14～26は革新的態度項目、27～39は大衆社会的態度項目である。

比較したところ、とくに著しい差異は認められなかった。そこで、今回はこれら6つの群をまとめたデータの分析結果を報告する。

1. 中学3年間の縦断的資料

(1) 3つの社会的態度の全般的な分析結果について

1) 各社会的態度の平均値とその変動

まず、保守的、革新的、大衆社会的態度のそれぞれについて、男女別学年別に平均値と標準偏差を算出した(表2)。

表2 中学3年間の各社会的態度得点の平均値と標準偏差

社会的態度	性別 学年 平均・標準偏差	男子			女子		
		中1	中2	中3	中1	中2	中3
		保守的	M 36.58	M 35.83	M 35.22	M 35.75	M 34.75
	SD 5.49	SD 5.69	SD 6.24	SD 5.42	SD 5.07	SD 5.69	
革新的	M 47.75	M 46.89	M 47.09	M 46.91	M 46.69	M 47.06	
	SD 4.36	SD 5.57	SD 5.66	SD 4.43	SD 4.84	SD 5.54	
大衆社会的	M 34.30	M 35.58	M 35.29	M 34.60	M 35.32	M 35.15	
	SD 6.35	SD 6.40	SD 6.96	SD 5.61	SD 5.54	SD 5.97	

男子について、学年ごとの各態度得点の平均値の変動をみてみると、保守的態度得点は中学1年が3年より高い(P<.01)。革新的態度得点は、中学1年が2年より高い(P<.05)。大衆社会的態度得点は、中学1年よりも2年、3年の方が高くなっている(それぞれP<.01, P<.05)。

女子では、保守的態度得点は中学1年が2年、3年より高く(それぞれP<.01, P<.001), 中学2年が3年より高い(P<.01)。しかし、革新的および大衆社会的態度得点では、学年間に何ら有意な差はみられない。

男女間の比較をしてみると、中学3年の保守的態度得点で、男子の方が女子より高い(P<.01)。その他の比較は、すべて有意ではない。

2) 各社会的態度内相関とその変動

つぎに、社会的態度がどのくらい一貫しているかをみるために、態度ごとに3年間の時点間相関係数を算出した(表3)。

男女とも3つの態度すべてで、いずれの時点間でも相関係数は有意となっている。このことから、各社会的態

表3 各社会的態度の時点間相関

態度	学年	中 1	中 2	中 3
保守的	中1		0.583 ***	0.422 ***
	中2	0.574 ***		0.594 ***
	中3	0.405 ***	0.464 ***	
革新的	中1		0.591 ***	0.382 ***
	中2	0.409 ***		0.562 ***
	中3	0.299 ***	0.472 ***	
大衆社会的	中1		0.604 ***	0.452 ***
	中2	0.588 ***		0.608 ***
	中3	0.573 ***	0.683 ***	

(注) 斜線下段は男子、上段は女子の相関係数である。表中*印は、相関係数の有意性がP<.05, **印はP<.01, ***印はP<.001であることを示す。以下、表4、表10、表11においても同様である。

表4 各社会的態度の相関

性別	社会的態度	学年		
		中 1	中 2	中 3
男子	保守的 - 革新的	-0.211 **	-0.270 ***	-0.541 ***
	革新的 - 大衆社会的	-0.032	-0.089	-0.247 ***
	大衆社会的 - 保守的	0.274 ***	0.133	0.390 ***
女子	保守的 - 革新的	-0.399 ***	-0.497 ***	-0.420 ***
	革新的 - 大衆社会的	-0.123	-0.276 ***	-0.038
	大衆社会的 - 保守的	0.203 **	0.275 ***	0.379 ***

度は中学3年間を通じ一貫しているといえる。

3) 各社会的態度間相関とその変動

また、3つの態度の相互関係をみるために、各態度間の相関係数を男女別学年別に算出した(表4)。

全体の傾向として、男女とも、保守的態度と革新的態度の間には負の相関関係が、大衆社会的態度と保守的態

表5 各社会的態度の変動量の分布および変動量の平均値と標準偏差

社会的態度	性別 学年 変動量	男 子		女 子	
		1 - 2	2 - 3	1 - 2	2 - 3
保 守 的	0 ~ 5	129	128	134	134
	6 ~ 10	40	38	31	32
	11 ~ 15	7	8	7	4
	16 ~ 20	2	2	1	2
	21 ~ 52	0	2	0	1
	M	4.04	4.60	3.70	3.78
SD	3.30	4.19	3.21	3.31	
革 新 的	0 ~ 5	136	130	147	133
	6 ~ 10	37	34	21	33
	11 ~ 15	3	11	5	5
	16 ~ 20	0	1	0	2
	21 ~ 52	2	2	0	0
	M	4.08	4.15	3.22	3.62
SD	3.77	4.01	2.71	3.30	
大 衆 社 会 的	0 ~ 5	125	130	121	134
	6 ~ 10	42	37	43	31
	11 ~ 15	8	9	9	5
	16 ~ 20	2	2	0	2
	21 ~ 52	1	0	0	1
	M	4.61	4.06	3.98	3.64
SD	3.72	3.48	3.04	3.58	

度の間には正の相関関係がある。とくに、保守的態度と革新的態度の関係は、男女とも中学1年の時点から負の相関係数が有意であり、この2つの態度の関係は中学1年の時からはっきりしており、相反するものと考えられていることがわかる。また、大衆社会的態度と保守的態度の関係は、女子において、中学1年の時点から正の相関係数が有意で、学年の進むにつれてその関連は強くなっていくといえる。

4) 各社会的態度得点の年間変動量

各社会的態度ごとに、各時点間の態度得点の差の絶対値を変動量とする。表5に、となり合う時点間の、変動量の分布ならびに変動量の平均値と標準偏差を示す。

男女とも、すべての態度で変動量の平均値は5.0以下であり、全般に変動量は小さいといえる。この傾向は、変動量の分布でも同様であり、どの態度も変動量10以下の者が90%以上を占めている。なお、変動量21以上の者のうち、女子の中学2年から3年にかけての保守的および大衆社会的態度で変動している者は、同一人物である。さて、中学1年から2年の間と中学2年から3年の間とでは、どちらが変動が大きいかをみると、男女ともどの社会的態度でも平均値に有意な差はみられない。このことから、中学1年から2年にかけて変動する量と中学2年から3年にかけて変動する量は、ほぼ同じであるといえる。

表6 項目別の平均値と標準偏差

質問項目	性別 学年	男 子			女 子		
		平均・標準偏差					
		中1	中2	中3	中1	中2	中3
1 国の政治は政治家にすっかりまかせた方がよい	M	2.11	2.20	2.12	2.29	2.27	2.05
	S D	0.92	0.99	1.00	0.78	0.85	0.83
2 女が政治などに口だしすべきでない	M	2.65	2.70	2.61	1.63	1.77	1.66
	S D	1.21	1.13	1.17	0.72	0.86	0.85
3 結婚は家柄を重んじなければならない	M	2.24	2.00	2.10	2.02	1.91	1.89
	S D	1.12	1.02	1.08	1.01	0.99	0.99
4 伝統や習慣は尊重すべきである	M	3.33	3.22	3.26	3.47	3.37	3.39
	S D	1.05	1.02	0.98	0.81	0.76	0.77
5 世間をわたるには義理や人情が最も大切である	M	3.20	3.14	3.13	3.28	3.20	3.07
	S D	0.94	0.96	0.92	0.90	0.76	0.79
6 長男が家をつぐのは当然だ	M	2.69	2.64	2.62	2.45	2.27	2.19
	S D	1.11	1.20	1.14	0.91	0.93	0.94
7 親孝行は子どもの義務である	M	3.75	3.58	3.68	3.70	3.57	3.62
	S D	1.00	0.96	0.93	0.93	0.97	0.88
8 目上の人にはもっと敬語を使った方がよい	M	3.16	3.17	3.16	3.34	3.39	3.39
	S D	1.05	1.04	0.96	0.85	0.78	0.83
9 学校で定めている校則にはどんな場合にも従うべきである	M	2.70	2.40	2.34	2.77	2.54	2.23
	S D	1.01	0.96	0.99	0.87	0.83	0.83
10 世の中の秩序を守るために上下関係はなくてはならない	M	2.96	2.96	3.12	2.90	2.86	2.98
	S D	1.08	0.96	1.01	0.98	0.85	0.84
11 日本は天皇を中心にまとまるべきである	M	2.15	2.17	1.92	2.35	2.25	2.14
	S D	1.13	1.11	1.07	0.99	0.90	0.97
12 デモやストでさわぐのは民主国家の恥である	M	2.95	2.81	2.44	2.89	2.69	2.60
	S D	1.03	1.03	1.02	0.82	0.87	0.94
13 家庭では父親がすべての実権をにぎるのが望ましい	M	2.72	2.84	2.74	2.66	2.65	2.35
	S D	1.03	1.06	1.11	1.07	1.15	1.04
14 個人の自由は尊重すべきである	M	4.08	4.09	4.25	4.05	4.12	4.29
	S D	0.87	0.83	0.77	0.74	0.75	0.71
15 正しいことであれば世間体など気にすべきでない	M	3.91	3.83	3.79	3.92	3.69	3.76
	S D	0.95	0.91	1.02	0.87	0.90	0.96

16	いくら恩義のある人でも筋道のとおり ない頼みごとは断った方がよい	M	4.04	3.94	3.76	4.12	4.06	4.06
		S D	0.92	1.02	1.07	0.77	0.80	0.80
17	社会のために正しいことであるなら親 の反対をおしきっても行動すべきである	M	3.69	3.63	3.51	3.41	3.43	3.44
		S D	0.88	0.97	0.92	0.81	0.78	0.84
18	いくら伝統だからといっても不合理な ことはやめるべきである	M	3.78	3.71	3.62	3.72	3.73	3.61
		S D	0.96	1.11	1.07	0.88	0.93	0.80
19	デモやストをするのは労働者の当然の 権利である	M	3.16	3.31	3.75	2.87	3.12	3.51
		S D	1.17	1.11	1.02	0.95	0.86	0.96
20	先輩の意見でも、まちがっていると思 えば、納得できるまで議論する	M	4.26	4.13	3.94	4.29	4.10	4.07
		S D	0.77	0.77	0.92	0.66	0.72	0.77
21	男女の交際は全く自由であり、まわり の人がとやかく言うべきでない	M	4.08	3.93	3.95	3.91	3.90	3.87
		S D	0.88	0.94	1.00	0.89	0.92	0.89
22	政治をよくするためには、もっと進歩的な 人から多くの代議士を選出すべきである	M	3.57	3.28	3.30	3.35	3.27	3.16
		S D	0.87	0.87	0.96	0.74	0.70	0.66
23	家庭内の仕事は男女平等に分担すべ きである	M	2.99	2.85	2.98	3.34	3.26	3.36
		S D	1.15	1.11	1.05	1.05	1.06	1.10
24	「方角が悪い」などということはま たく信用しない	M	3.16	3.13	3.21	2.95	2.95	2.94
		S D	1.04	1.02	1.05	0.87	1.02	0.93
25	結婚式などの儀式はなるべく簡素化す るのがよい	M	3.17	3.29	3.40	2.95	3.16	3.18
		S D	1.06	1.10	1.06	0.95	0.92	0.99
26	家庭では子どもの意見も大人の意見と 同等に尊重されるべきである	M	3.87	3.78	3.63	4.02	3.89	3.80
		S D	1.04	1.01	0.97	0.90	0.91	0.97
27	流行語などはよく知っていないとはず かしい	M	2.75	2.75	2.61	2.76	2.87	2.81
		S D	0.87	0.88	0.98	0.86	0.78	0.82
28	労働者や大学生のストライキやデモ活 動などは関心がない	M	3.08	3.04	2.85	3.01	3.07	3.01
		S D	1.09	1.01	1.04	0.83	0.89	0.88
29	みんなが見ているテレビ番組を見てい ないと、とりのこされる気がする	M	2.29	2.42	2.31	2.62	2.71	2.60
		S D	1.01	0.91	1.02	1.00	0.96	0.90
30	国の法律が望ましいものかどうか考え る必要はない	M	2.08	2.06	2.04	2.14	2.09	2.02
		S D	0.95	0.88	0.96	0.77	0.75	0.82
31	中・高校生の時代には政治の問題など 考えるよりレジャーを楽しんだ方がよい	M	3.29	3.21	3.06	3.05	2.99	2.97
		S D	1.23	1.24	1.22	0.95	1.00	1.04
32	理論よりフィーリングやムードが大切 である	M	2.93	3.07	3.02	2.97	2.90	2.94
		S D	0.85	0.96	1.00	0.78	0.72	0.90
33	誰が衆議員の選挙で当選しようと日本 の政治はかわらないと思う	M	2.81	3.20	3.22	2.85	3.05	3.31
		S D	1.34	1.27	1.31	1.12	1.14	1.11
34	今の世の中では平凡な家庭の中にさ やかな幸福を求めた方がよい	M	3.69	3.35	3.11	3.78	3.58	3.20
		S D	1.00	1.04	1.14	0.98	1.05	0.96
35	共同募金や歳末助け合い運動があると なるべくさけるようにする	M	2.06	2.34	2.72	1.83	2.12	2.35
		S D	0.93	0.97	1.09	0.69	0.86	0.89
36	ベトナム戦争など日常生活とかけはな れた政治問題など考えるのはめんど うだ	M	2.28	2.46	2.47	2.40	2.46	2.42
		S D	0.93	1.05	1.10	0.87	0.90	0.91
37	いつの世でもお金がなければ幸福には なれない	M	2.61	3.14	3.24	2.62	2.86	2.95
		S D	1.26	1.22	1.18	1.10	1.07	1.00
38	皆と同じような持物や服装をしていな いとひけめを感じる	M	2.71	2.69	2.71	2.82	2.83	2.77
		S D	1.04	1.04	1.03	0.99	1.08	0.97
39	公害問題は被害者と加害者だけの問題 である	M	1.71	1.87	1.93	1.75	1.81	1.82
		S D	0.99	1.10	1.04	0.85	0.84	0.84

表7 学年間の検定結果

項目	1			2			3			4			5			6			7			8		
学年	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3
中1		≫	≫		<			≫							>		>	≫						
中2			≫																					
中3																								
項目	9			10			11			12			13			14			15			16		
学年	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3
中1		≫	≫			≫		≫	≫		≫	≫		≫	≫		≪	≪		≫	≫		≫	≫
中2		≫	≫			≫		≫	≫		≫	≫		≫	≫		≪	≪		≪	≪		≫	≫
中3		≫	≫			≫		≫	≫		≫	≫		≫	≫		≪	≪		≪	≪		≫	≫
項目	17			18			19			20			21			22			23			24		
学年	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3
中1								≪	≪		≫	≫		≫	≫		≫	≫		≫	≫		≫	≫
中2								≪	≪		≫	≫		≫	≫		≫	≫		≫	≫		≫	≫
中3		>						≪	≪		≫	≫		≫	≫		≫	≫		≫	≫		≫	≫
項目	25			26			27			28			29			30			31			32		
学年	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3
中1		<	<			≫																		
中2																								
中3		<																						
項目	33			34			35			36			37			38			39					
学年	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3
中1		<	≪		≫	≫		≪	≪		≪	≪		≪	≪		<	≪		≪	≪		≪	≪
中2		≪	≪		≫	≫		≪	≪		≪	≪		≪	≪		≪	≪		≪	≪		≪	≪
中3		≪	≪		≫	≫		≪	≪		≪	≪		≪	≪		≪	≪		≪	≪		≪	≪

(注) 斜線下段は男子, 上段は女子についての検定結果である。表中<印は, 該当する学年間の平均値の比較で, 上の学年が5%水準で有意に高いことを示す。同様に, ≪印はP<.01, ≫印はP<.001である。また>印は, 該当する学年間の平均値の比較で, 下の学年が5%水準で有意に高いことを示す。同様に, ≫印はP<.01, ≫印はP<.001である。この表記のしかたは, 表14でも同様である。

表8 男女間の検定結果

項目	学年			項目	学年			項目	学年		
	中1	中2	中3		中1	中2	中3		中1	中2	中3
1	⊕			14				27			⊕
2	***	***	***	15				28			
3				16			⊕⊕	29	⊕⊕	⊕⊕	⊕⊕
4				17	**	*		30			
5				18				31	*		
6	*	***	***	19	*		*	32			
7				20				33			
8		⊕	⊕	21				34		⊕	
9				22	*			35	**	*	***
10				23	⊕⊕	⊕⊕⊕	⊕⊕⊕	36			
11			⊕	24	*		**	37		*	*
12				25	*		*	38			
13			***	26				39			

(注) 表中、*印は男子の方が女子より得点が高く、その有意性は $P<.05$ であることを示す。同様に**印は $P<.01$ 、***印は $P<.001$ であることを示す。また⊕印は女子の方が男子より得点が高く、その有意性が $P<.05$ であることを示す。同様に⊕⊕印は $P<.01$ 、⊕⊕⊕印は $P<.001$ であることを示す。この表記のしかたは、表15に関しても同様である。

つぎに、男女間の変動量の平均値を比較すると、保守的態度において、中学2年と3年の間で男子の方が女子より大きい($P<.05$)。また、革新的態度の中学1年と2年の間で、男子の方が女子より大きい($P<.05$)。このように、男子は女子よりやや変動する量が多いといえよう。

5) 全般的傾向についてのまとめ

以上、4つの側面からみた中学3年間の3つの社会的態度の全般的な傾向をまとめてみると、つぎのようになる。

①男女とも、中学1年から3年にかけて保守的態度は弱くなる傾向があり、それは一貫している。

②男子では、大衆社会的態度は、中学1年より2年および3年で強くなる傾向がある。

③中学3年間を通じて、男女とも、保守的態度と革新的態度との間には負の相関関係が、大衆社会的態度と保守的態度との間には正の相関関係がある。

④各社会的態度の年間変動量は全般に小さく、変動する時期に差はない。また、男子は女子より変動量がやや大きいといえる。

(2) 項目水準における分析結果について

表6は、質問項目ごとの男女別学年別の平均値と標準偏差を示し、表7は学年間の検定結果を、また表8は男女間の検定結果を示している。

1) 学年間の平均値の比較

まず男子について、主だった結果をのべる。保守的態度の項目のうち、9「学校で定めている校則にはどんな場合にも従うべきである」では、中学2年および3年は1年よりも得点が高い(いずれも $P<.001$)。また、11「日本は天皇を中心にまとまるべきである」、12「デモやストでさわぐのは民主国家の恥である」では、いずれも中学3年は、1年および2年よりも得点が高い(順に $P<.05$, $P<.01$; $P<.001$, $P<.001$)。項目1, 2, 4, 5, 6, 8, 10および13の8項目では、学年間の平均値に有意な差はみられない。このように、保守的態度の項目には、学年のあがるにつれ得点の低くなる項目と得点の変化しない項目がある。

革新的態度の項目のなかで、14「個人の自由は尊重すべきである」、19「デモやストをするのは労働者の当然の権利である」では、中学3年は1年および2年より得点が高い(順に $P<.05$, $P<.05$; $P<.001$, $P<.001$)。逆に、20「先輩の意見でも、まちがっていると思えば、納得できるまで議論する」では、中学3年は1年および2年より得点が高い(それぞれ $P<.001$, $P<.05$)。22「政治をよくするためには、もっと進歩的な人から多くの代議士を選出すべきである」では、中学2年および3年は1年より得点が高い(それぞれ $P<.001$, $P<.01$)。15, 18, 23および24

の4項目では、学年間の平均値に差はない。このように、革新的態度の項目には、学年のあがるにつれ得点の高くなる項目と逆に得点の低くなる項目および得点の変化しない項目がある。

大衆社会的態度の項目をみても、33「誰が衆議員の選挙で当選しようとする日本の政治はかわらないと思う」、36「ベトナム戦争など日常生活とかけはなれた政治問題など考えるのはめんどろだ」ならびに37「いつの世でもお金がなければ幸福にはなれない」では、中学2年および3年は1年より得点が高い(順に $P<.001, P<.001; P<.05, P<.05; P<.001, P<.001$)。また、35「共同募金や歳末助け合い運動があるとなるべくさけるようにする」では、中学2年および3年は1年より得点が高く、中学3年は2年より高い(すべて $P<.001$)。逆に、34「今の世の中では平凡な家庭の中にささやかな幸福を求めた方がよい」では、中学2年および3年は1年より得点が低く(いずれも $P<.001$)、中学3年は2年より得点が低い($P<.05$)。27, 29, 30, 32および38の5項目では、学年間の平均値に差はない。このように、大衆社会的態度の項目には、34を除いて、学年のあがるにつれ得点の高くなる項目と得点の変化しない項目がある。

つぎに、女子の結果をみてみよう。保守的態度の項目1「国の政治は政治家にすっかりまかせた方がよい」では、中学3年は1年および2年にくらべ得点が低い(それぞれ $P<.001, P<.01$)。6「長男が家をつぐのは当然だ」、12「デモヤストでさわぐのは民主国家の恥である」では、中学2年および3年は1年より得点が低い(順に $P<.05, P<.01; P<.01, P<.001$)。また、9「学校で定めている校則にはどんな場合にも従うべきである」では、中学2年および3年は1年より、中学3年は2年よりそれぞれ得点が低い(すべて $P<.001$)。13「家庭では父親がすべての実権をにぎるのが望ましい」では、中学3年は1年および2年より得点が低い(いずれも $P<.001$)。項目3, 4, 7, 8および10の5項目では、学年間の平均値に差はみられていない。このように、男子の場合と同様に、女子でも保守的態度の項目には、学年のあがるにつれ得点の低くなる項目と得点の変化しない項目がある。

革新的態度の項目のうち、14「個人の自由は尊重すべきである」では、中学3年は1年および2年より得点が高い(それぞれ $P<.001, P<.01$)。また、19「デモヤストをするのは労働者の当然の権利である」では、中学2年および3年は1年よりも、中学3年は2年よりも得点が高い(すべて $P<.001$)。同様に、25「結婚式などの儀式はなるべく簡素化するのがよい」では、中学2年および3年は1年より得点が高い(ともに $P<.05$)。ところが、男子の場合と同様に、20「先輩の意見でも、まちがってい

ると思えば、納得できるまで議論する」では、中学2年および3年は1年より得点が低くなっている(それぞれ $P<.01, P<.001$)。16, 17, 18, 21, 23および24の6項目では、学年間の平均値に差はみられていない。このように女子の場合でも、革新的態度の項目には、学年のあがるにつれ得点の高くなる項目と逆に得点の低くなる項目および得点の変化しない項目がある。

大衆社会的態度の項目のなかで、33「誰が衆議員の選挙で当選しようとする日本の政治はかわらないと思う」および35「共同募金や歳末助け合い運動があるとなるべくさけるようにする」では、中学2年および3年は1年よりも、中学3年は2年よりも得点が高い(順に $P<.05, P<.001, P<.01; P<.001, P<.001, P<.001$)。また、37「いつの世でもお金がなければ幸福にはなれない」では、中学2年および3年は1年より得点が高い(それぞれ $P<.05, P<.001$)。逆に、34「今の世の中では平凡な家庭の中にささやかな幸福を求めた方がよい」では、中学2年および3年は1年より、中学3年は2年より得点が低い(順に $P<.01, P<.001, P<.001$)。27, 28, 29, 30, 31, 32, 36, 38および39の9項目では、学年間の平均値に差はみられない。このように、大衆社会的態度の項目には、男子の場合と同様に34を除いて、学年のあがるにつれ得点の高くなる項目と得点の変化しない項目があるといえよう。

2) 男女間の平均値の比較

中学3年間を通して一貫して男子の方が女子より得点の高い項目は、21「女が政治などに口だしすべきでない」、6「長男が家をつぐのは当然だ」および35「共同募金や歳末助け合い運動があるとなるべくさけるようにする」の3つの項目である。逆に、中学3年間を通して女子の方が男子より得点の高い項目は、23「家庭内の仕事は男女平等に分担すべきである」および29「みんなが見ているテレビ番組を見ていないと、とりのこされる気がする」の2つの項目である。

中学1年および2年で差がみられ、3年で差がなくなるのは、項目17「社会のために正しいことであるなら親の反対をおし切っても行動すべきである」の1項目であり、男子の得点が女子より高い。

また、中学1年では差がなかったものの中学2年および3年で差が出てくる項目は、8「目上の人にはもっと敬語を使った方がよい」と37「いつの世でもお金がなければ幸福にはなれない」の2つの項目である。項目8は、女子の得点が男子にくらべ高く、項目37は男子の得点が女子にくらべ高い。

39項目のうち、約半数の20項目では、男女間の平均値に有意な差はみられていない。

3) 項目水準における分析結果のまとめ

表9 高校3年間の各社会的態度得点の平均値と標準偏差

社会的態度	平均・標準偏差	性別 学年	男 子			女 子		
			高 I	高 II	高 III	高 I	高 II	高 III
			保守的	M S D	34.29 6.02	35.02 5.96	34.57 6.19	32.96 5.21
革新的	M S D	47.43 5.53	46.76 6.01	47.15 5.61	46.70 5.03	46.71 4.79	46.53 4.87	
大衆社会的	M S D	34.96 6.61	35.49 7.23	35.01 7.08	34.75 5.39	35.49 5.95	35.42 5.98	

中学3年間の項目水準における分析結果をまとめると、つぎようになる。

①保守的態度の項目には、学年のあがるにつれ得点の低くなる項目と変化しない項目がある。

②革新的態度の項目には、学年のあがるにつれ得点の高くなる項目と低くなる項目および変化しない項目がある。

③大衆社会的態度の項目には、学年のあがるにつれ得点の高くなる項目と変化しない項目がある。

④39項目のうちの約半数の20項目では、男女間に差はみられない。

2. 高校3年間の縦断的資料

(1) 3つの社会的態度の全般的な分析結果について

1) 各社会的態度の平均値とその変動

高校3年間における各態度の男女別学年別の平均値と標準偏差を表9に示す。

まず、学年間の比較をすると、男子において保守的態度得点は、高校Ⅱ年がⅠ年より高い(P<.05)。革新的ならびに大衆社会的態度得点は、学年間に何ら有意な差はな

い。女子では、保守的ならびに革新的態度得点は学年間に差はないが、大衆社会的態度得点は高校Ⅱ年およびⅢ年がⅠ年より高い(それぞれP<.01, P<.05)。

つぎに、男女間の比較をすると、保守的態度得点は各学年でともに男子の方が女子より高い(高校Ⅰ年から順にP<.01, P<.001, P<.05)。革新的および大衆社会的態度得点は、どの学年においても男女差はみられない。

表10 各社会的態度の時点間相関

態度	学年	高 I	高 II	高 III
保守的	高 I		0.736 ***	0.644 ***
	高 II	0.567 ***		0.738 ***
	高 III	0.509 ***	0.480 ***	
革新的	高 I		0.695 ***	0.558 ***
	高 II	0.441 ***		0.692 ***
	高 III	0.458 ***	0.509 ***	
大衆社会的	高 I		0.774 ***	0.719 ***
	高 II	0.528 ***		0.755 ***
	高 III	0.461 ***	0.616 ***	

表11 各社会的態度の相関

性別	社会的態度	学年		
		高 I	高 II	高 III
男 子	保守的 - 革新的	-0.481 ***	-0.581 ***	-0.430 ***
	革新的 - 大衆社会的	-0.142 *	-0.273 ***	-0.267 ***
	大衆社会的 - 保守的	0.195 ***	0.369 ***	0.334 ***
女 子	保守的 - 革新的	-0.526 ***	-0.495 ***	-0.541 ***
	革新的 - 大衆社会的	-0.274 ***	-0.297 ***	-0.339 ***
	大衆社会的 - 保守的	0.421 ***	0.541 ***	0.558 ***

2) 各社会的態度内相関とその変動

高校3年間の態度別時点間相関係数を表10に示す。

男女とも3つの態度において、いずれの時点間でも相関係数が有意である。とりわけ女子の大衆社会的態度では、.7以上の高い相関がある。これらことから、中学3年間の時と同様に、各社会的態度は高校3年間を通じて一貫しているといえる。

3) 各社会的態度間相関とその変動

男女別学年別の3つの態度間の相関係数を表11に示す。すべての相関係数が有意となっており、高校1年の時点から3つの態度の関係は明確になっている。中学3年間の結果と同様に、保守的態度と革新的態度の間には負の相関関係が、大衆社会的態度と保守的態度の間には正の相関関係がある。

革新的態度と大衆社会的態度の間関係は、中学にくらべて、男女とも学年を追うごとに明確となり、負の相

関関係がある。

4) 各社会的態度得点の年間変動量

表12に、となり合った時点間の変動量の分布ならびにその平均値と標準偏差を示す。

中学3年間の結果と同様に、男女ともすべての態度で変動量の平均値は5.0以下であり、変動量の分布でも変動量10以下の者が90%以上を占めている。なお、男子の高校1年からⅡ年間で変動量21以上の者をみると、1名が各態度ともに21以上の変動をしている。また、高校Ⅱ年とⅢ年の間でも1名が各態度で21以上の変動を示している。しかし、全般的には男女とも変動は小さいといえる。

時点間変動量の平均値の比較をすると、男女ともどの態度にも有意な差はみられない。すなわち、高校1年からⅡ年にかけて変動する量と高校Ⅱ年からⅢ年にかけて変動する量は、ほぼ同じであるといえる。

つぎに、男女間の変動量を比較すると、高校1年とⅡ年の間では、3つの態度すべての変動量において、男子は女子より大きい(すべて $P<.001$)。また、高校Ⅱ年とⅢ年の間でも、3つの態度すべてにおいて、男子は女子より変動が大きい(保守的態度で $P<.01$,革新的および大衆社会的態度で $P<.001$)。このように、高校3年間において、男子は女子より変動する量の大きいことがわかる。

5) 全般的傾向についてのまとめ

高校3年間の3つの社会的態度の全般的な傾向をまとめてみると、つぎのようになる。

①女子において、大衆社会的態度は高校Ⅱ年およびⅢ年で1年より強くなっている。

②高校3年間を通じて、男子は女子より保守的態度が一貫して強い。

③男女とも高校3年間を通じて、保守的態度と革新的態度との間および革新的態度と大衆社会的態度との間に負の相関関係が、大衆社会的態度と保守的態度との間に正の相関関係があり、各態度間の関係は明確である。

④各社会的態度の年間変動量は全般的に小さく、変動する時期に差はない。しかし、男子は女子より3つの態度すべてで、変動量が大きい。

(2) 項目水準における分析結果について

質問項目ごとの男女別学年別の平均値と標準偏差を、表13に示す。また、学年間の検定結果を表14に、男女間の検定結果を表15に示す。

1) 学年間の平均値の比較

まず男子について、保守的態度の項目のうち、10「世の中の秩序を守るために上下関係はなくてはならない」では、高校Ⅱ年およびⅢ年は1年より得点が高い(ともに $P<.001$)。しかし、2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 11, 12お

表12 各社会的態度の変動量の分布および変動量の平均値と標準偏差

社会的態度	学年 変動量	性別		性別	
		男 子		女 子	
		I - II	II - III	I - II	II - III
保 守 的	0 ~ 5	210	217	216	216
	6 ~ 10	51	42	34	32
	11 ~ 15	6	7	1	4
	16 ~ 20	5	5	1	0
	21 ~ 52	3	4	0	0
	M	3.87	3.99	2.83	3.02
S D	4.07	4.76	2.52	2.36	
革 新 的	0 ~ 5	204	208	220	220
	6 ~ 10	54	50	29	27
	11 ~ 15	10	13	2	5
	16 ~ 20	4	1	1	0
	21 ~ 52	3	3	0	0
	M	4.17	4.06	2.76	2.84
S D	4.52	4.11	2.67	2.52	
大 衆 社 会 的	0 ~ 5	183	199	217	222
	6 ~ 10	64	52	32	23
	11 ~ 15	16	17	3	4
	16 ~ 20	10	3	0	3
	21 ~ 52	2	4	0	0
	M	4.80	4.43	3.00	3.08
S D	4.75	4.45	2.52	2.81	

よび13の11項目で学年間の平均値に差はない。このように、高校3年間において、保守的態度の各項目はほとんど得点の変化はないといえる。

革新的態度の項目のうち、20「先輩の意見でも、まちがっていると思えば、納得できるまで議論する」では、高校Ⅱ年およびⅢ年はⅠ年より得点が高い（ともに $P < .01$ ）。しかし、14, 15, 16, 18, 21, 22, 23, 24および26の9項目では、学年間の平均値に差はない。このように、革新的態度の項目では、学年のあがるにつれ得点の低くなる項目と変化しない項目がある。

大衆社会的態度の項目のうち、35「共同募金や歳末助

け合い運動があるとなるべくさけるようにする」と39「公害問題は被害者と加害者だけの問題である」では、高校Ⅱ年およびⅢ年はⅠ年より得点が高い（順に $P < .05$, $P < .001$; $P < .01$, $P < .001$ ）。28, 29, 30, 31, 32, 33, 34および37の8項目では、学年間の平均値に差はみられない。大衆社会的態度の項目には、学年のあがるにつれ得点の高くなる項目と変化しない項目がある。

つぎに、女子の結果をみてみよう。保守的態度の項目のうち、8「目上の人にはもっと敬語を使った方がよい」では、高校Ⅱ年およびⅢ年はⅠ年より得点が高い（それぞれ $P < .001$, $P < .05$ ）。しかし、1, 2, 3, 5, 6, 7, 9, 10,

表13 項目別の平均値と標準偏差

質問項目	性別 学年 平均・標準偏差	男 子			女 子		
		高Ⅰ	高Ⅱ	高Ⅲ	高Ⅰ	高Ⅱ	高Ⅲ
1 国の政治は政治家にすっかりまかせた方がよい	M	1.96	2.09	2.00	2.06	2.13	2.15
	S D	0.96	1.01	0.99	0.83	0.85	0.79
2 女が政治などに口だしすべきでない	M	2.63	2.71	2.70	1.73	1.67	1.71
	S D	1.17	1.16	1.20	0.89	0.82	0.85
3 結婚は家柄を重んじなければならない	M	1.87	1.88	1.94	1.94	2.05	2.01
	S D	1.01	0.94	0.88	0.93	0.92	0.90
4 伝統や習慣は尊重すべきである	M	3.35	3.35	3.31	3.33	3.40	3.30
	S D	0.96	0.86	0.89	0.68	0.69	0.65
5 世間をわたるには義理や人情が最も大切である	M	3.19	3.11	3.07	2.94	2.90	2.96
	S D	1.05	0.94	0.99	0.78	0.83	0.81
6 長男が家をつぐのは当然だ	M	2.36	2.44	2.36	2.15	2.25	2.20
	S D	0.98	0.96	0.93	0.86	0.94	0.90
7 親孝行は子どもの義務である	M	3.71	3.68	3.59	3.56	3.54	3.57
	S D	0.95	0.92	0.96	0.88	0.87	0.85
8 目上の人にはもっと敬語を使った方がよい	M	3.17	3.28	3.24	3.34	3.50	3.44
	S D	0.98	0.96	0.95	0.86	0.75	0.74
9 学校で定めている校則にはどんな場合にも従うべきである	M	2.28	2.26	2.24	2.24	2.17	2.20
	S D	0.95	0.95	1.01	0.82	0.72	0.77
10 世の中の秩序を守るために上下関係はなくてはならない	M	3.01	3.22	3.24	3.06	3.18	3.13
	S D	1.03	0.89	0.97	0.83	0.82	0.79
11 日本は天皇を中心にまとまるべきである	M	1.89	1.99	1.92	1.97	1.90	2.01
	S D	1.00	1.10	1.07	0.96	0.85	0.92
12 デモやストでさわぐのは民主国家の恥である	M	2.24	2.34	2.28	2.31	2.34	2.30
	S D	1.00	1.00	0.95	0.82	0.79	0.77
13 家庭では父親がすべての実権をにぎるのが望ましい	M	2.64	2.67	2.68	2.33	2.36	2.39
	S D	1.02	1.04	1.04	0.87	0.93	0.98
14 個人の自由は尊重すべきである	M	4.22	4.27	4.26	4.17	4.22	4.20
	S D	0.79	0.83	0.82	0.64	0.60	0.59
15 正しいことであれば世間体など気にすべきでない	M	3.76	3.79	3.83	3.75	3.70	3.65
	S D	0.98	0.95	0.90	0.78	0.79	0.80

中学生・高校生の社会的態度に関する縦断的研究 (IV)

16	いくら恩義のある人でも筋道のとおり ない頼みごとは断った方がよい	M	3.89	3.82	3.81	3.96	3.96	3.85
		S D	0.92	1.00	0.90	0.72	0.71	0.77
17	社会のために正しいことであるなら親 の反対をおし切っても行動すべきである	M	3.61	3.49	3.57	3.42	3.40	3.39
		S D	0.91	0.93	0.84	0.78	0.70	0.76
18	いくら伝統だからといって不合理な ことはやめるべきである	M	3.79	3.72	3.72	3.79	3.77	3.71
		S D	0.97	1.04	0.93	0.90	0.85	0.83
19	デモやストをするのは労働者の当然の 権利である	M	3.71	3.63	3.75	3.50	3.51	3.59
		S D	1.09	1.07	0.99	0.88	0.89	0.83
20	先輩の意見でも、まちがっていると思 えば、納得できるまで議論する	M	4.00	3.83	3.81	3.93	3.90	3.82
		S D	0.84	0.94	0.90	0.70	0.66	0.78
21	男女の交際は全く自由であり、まわり の人がとやかく言うべきでない	M	4.02	3.91	3.91	3.74	3.67	3.67
		S D	0.88	0.97	0.95	0.89	0.88	0.83
22	政治をよくするためには、もっと進歩的 な人から多くの代議士を選出すべきである	M	3.29	3.25	3.26	3.26	3.33	3.30
		S D	0.92	0.90	0.85	0.71	0.74	0.59
23	家庭内の仕事は男女平等に分担すべ きである	M	2.63	2.56	2.60	3.13	3.20	3.32
		S D	1.02	1.05	1.06	1.05	1.02	0.98
24	「方角が悪い」などということはま ったく信用しない	M	3.36	3.36	3.44	3.10	2.98	3.04
		S D	1.24	1.18	1.19	1.05	1.02	1.03
25	結婚式などの儀式はなるべく簡素化 するのがよい	M	3.53	3.60	3.67	3.22	3.41	3.42
		S D	1.06	0.99	0.96	0.94	0.92	0.85
26	家庭では子どもの意見も大人の意見と 同等に尊重されるべきである	M	3.63	3.54	3.52	3.73	3.65	3.58
		S D	0.97	0.97	0.89	0.84	0.84	0.83
27	流行語などはよく知っていないとほ ろかしい	M	2.78	2.77	2.65	2.75	2.80	2.73
		S D	1.03	0.99	1.00	0.79	0.85	0.83
28	労働者や大学生のストライキやデモ活 動などに関心がない	M	2.96	2.92	2.91	2.84	2.88	2.92
		S D	1.09	1.09	1.09	0.84	0.82	0.94
29	みんなが見ているテレビ番組を見て いないと、とりのこされる気がする	M	2.38	2.37	2.32	2.44	2.52	2.41
		S D	1.02	1.03	1.03	0.86	0.90	0.85
30	国の法律が望ましいものかどうか考 える必要はない	M	1.84	1.86	1.92	1.94	2.04	1.99
		S D	0.86	0.86	0.96	0.71	0.79	0.71
31	中・高校生の時代には政治の問題な ど考えるよりレジャーを楽しんだ方がよい	M	2.94	2.91	2.81	2.74	2.86	2.79
		S D	1.15	1.14	1.16	0.95	0.99	0.95
32	理論よりフィーリングやムードが大 切である	M	2.93	2.94	2.83	2.93	2.93	2.93
		S D	1.01	1.01	1.01	0.84	0.83	0.82
33	誰が衆議員の選挙で当選しようと日 本の政治はかわらないと思う	M	3.35	3.42	3.36	3.37	3.45	3.43
		S D	1.33	1.25	1.26	1.08	1.06	0.94
34	今の世の中では平凡な家庭の中にさ やかな幸福を求めた方がよい	M	2.98	2.97	2.88	3.20	3.11	3.01
		S D	1.13	1.09	1.11	0.99	1.01	1.03
35	共同募金や歳末助け合い運動があ るとなるべくさけるようにする	M	2.65	2.81	2.95	2.35	2.43	2.60
		S D	1.00	1.01	1.00	0.85	0.79	0.84
36	ベトナム戦争など日常生活とかけは なれた政治問題など考えるのはめん どうだ	M	2.37	2.51	2.41	2.38	2.49	2.52
		S D	1.05	1.10	1.08	0.86	0.83	0.87
37	いつの世でもお金がなければ幸福 にはなれない	M	3.19	3.30	3.32	3.12	3.27	3.37
		S D	1.10	1.15	1.06	0.99	1.00	1.01
38	皆と同じような持物や服装をして いないとひけめを感じる	M	2.78	2.73	2.61	2.93	2.86	2.84
		S D	1.08	1.08	0.99	0.88	0.91	0.82
39	公害問題は被害者と加害者だけの 問題である	M	1.81	1.98	2.04	1.76	1.85	1.90
		S D	1.01	1.07	1.02	0.74	0.77	0.79

表14 学年間の検定結果

項目	1			2			3			4			5			6			7			8			
学年	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	
高I																									
高II	<																								
高III																									
項目	9			10			11			12			13			14			15			16			
学年	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	
高I																									
高II																									
高III																									
項目	17			18			19			20			21			22			23			24			
学年	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	
高I																									
高II	>																								
高III																									
項目	25			26			27			28			29			30			31			32			
学年	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	
高I																									
高II																									
高III	<																								
項目	33			34			35			36			37			38			39						
学年	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	高I	高II	高III	
高I																									
高II																									
高III																									

表15 男女間の検定結果

項目	学年			項目	学年			項目	学年		
	高Ⅰ	高Ⅱ	高Ⅲ		高Ⅰ	高Ⅱ	高Ⅲ		高Ⅰ	高Ⅱ	高Ⅲ
1			⊗	14				27			
2	***	***	***	15			*	28			
3		⊗		16				29			
4				17	**		*	30		⊗	
5	**	**		18				31	*		
6	**	*	*	19	*			32			
7				20				33			
8	⊗	⊗⊗	⊗⊗	21	***	**	**	34	⊗		
9				22				35	***	***	***
10				23	⊗⊗⊗	⊗⊗⊗	⊗⊗⊗	36			
11				24	*	***	***	37			
12				25	***	*	**	38			⊗⊗
13	***	***	***	26				39			

12および13の10項目では、学年間の平均値に差はない。このように、男子の場合と同様に、女子でも高校3年間の保守的態様の各項目は、ほとんど変化がないといえる。

革新的態様の項目のうち、16「いくら恩義のある人でも筋道のとおらない頼みごとは断った方がよい」では、高校ⅢはⅠ年およびⅡ年より得点が低い(ともに $P<.05$)。一方、23「家庭内の仕事は男女平等に分担すべきである」では、高校Ⅲ年はⅠ年およびⅡ年より得点が高く(それぞれ $P<.01$, $P<.05$)、25「結婚式などの儀式はなるべく簡素化するのがよい」では、高校Ⅱ年およびⅢ年はⅠ年より得点が高い(ともに $P<.001$)。14、15、17、18、19、21および22の7項目では、学年間の平均値に差はない。このように、革新的態様の項目には、学年のあがるにつれ得点の高くなる項目と低くなる項目および変化しない項目がある。

大衆社会的態様の項目のうち、35「共同募金や歳末助け合い運動があるとなるべくさけるようにする」では、高校Ⅲ年はⅠ年およびⅡ年より得点が高い(ともに $P<.001$)。また、36「ベトナム戦争など日常生活とかけはなれた政治問題など考えるのはめんどろだ」ならびに37「いつの世でもお金がなければ幸福にはなれない」では、高校Ⅱ年およびⅢ年はⅠ年より得点が高い(順に $P<.05$, $P<.05$; $P<.01$, $P<.001$)。27、28、31、32、33および38の6項目では、学年間の平均値に差はみられていない。このように、大衆社会的態様の項目には、学年のあがるにつれ得点の高くなる項目と変化しない項目がある。

2) 男女間の平均値の比較

高校3年間を通して男子の方が女子より得点の高い項目は、2「女が政治などに口だしすべきでない」、6「長男が家をつぐのは当然だ」、13「家庭では父親がすべての実権をにぎるのが望ましい」、21「男女の交際は全く自由であり、まわりの人がとやかく言うべきでない」、24「『方角が悪い』などということはまったく信用しない」、25「結婚式などの儀式はなるべく簡素化するのがよい」および35「共同募金や歳末助け合い運動があるとなるべくさけるようにする」の7項目である。逆に、女子が男子より高校3年間を通して得点の高い項目は、8「目上の人にはもっと敬語を使った方がよい」と23「家庭内の仕事は男女平等に分担すべきである」の2項目である。

39項目のうち、約半数の20項目では、男女間の平均値に有意な差はない。

3) 項目水準における分析結果のまとめ

高校3年間の項目水準における分析結果をまとめると、つぎようになる。

①保守的態様の各項目は、得点の変化がほとんどみられない。

②大衆社会的態様の項目には、学年のあがるにつれ得点の高くなる項目と変化しない項目がある。

③39項目のうちの半数の20項目では、男女間に差はない。しかし、高校3年間を通して男子は女子より得点の高い項目がかなりある。

IV 討 論

今回の報告では、中学3年間有効な縦断的データと高校3年間有効な縦断的データを収集し、中学3年間ならびに高校3年間における社会的態度の発達過程をみてきた。ここでは、はじめに中学3年間および高校3年間の3つの社会的態度の全般的傾向について整理し、ひきつづき項目水準における分析結果について検討を加える。

1. 3つの社会的態度の全般的傾向

中学3年間ならびに高校3年間の全般的傾向については、すでに結果のところでもまとめておいた。そのうちのいくつかは、以前われわれが報告してきた結果とほぼ同じである。しかし、今回の分析で明らかとなった結果もいくつかあるので、今一度結果を整理してみる。

①男女とも、中学1年から中学3年にかけて、保守的態度は弱くなる傾向がある(表2)。

②男女間の差は保守的態度得点にみられ、中学3年から高校Ⅲ年にかけて男子は女子より保守的傾向が強い(表2, 表9)。

③大衆社会的態度は、男子では中学2年および3年で1年より強くなり、女子では高校Ⅱ年およびⅢ年で1年より強くなる(表2, 表9)。

④各社会的態度内の時点間相関は、中学ならびに高校の各3年間においてすべて有意である(表3, 表10)。

⑤中学3年間ならびに高校3年間において、保守的態度と革新的態度の間には負の相関関係が、大衆社会的態度と保守的態度の間には正の相関関係がある(表4, 表11)。

⑥全般的にみて、各態度間の相関は、中学3年間より高校3年間の方が高く、各態度間の関係は明確になる(表4, 表11)。

⑦革新的態度と大衆社会的態度の間には、男子では中学3年から、女子では高校Ⅰ年から有意な負の相関関係がある(表4, 表11)。

⑧年間変動量は、男女とも中学ならびに高校の各3年間において小さく、変動する時期に差異はない(表5, 表12)。

⑨高校3年間において、各態度ともに男子は女子より変動量が大きい(表12)。

このうち、①と②の結果は注目に値しよう。われわれは、これまで3つの社会的態度のうち大衆社会的態度得点の変化を中心に、被験者のグループ化などを試みてきた(久世ら; 1979, 1980)。しかし、今回得られた結果は、とくに性差を考える上で保守的態度の変化に注目することができることを示している。保守的態度は、男女ともに中学3年間で弱まる傾向にある。これは、どの

ように理解すればよいのであろうか。いわゆる保守的・伝統的な価値観は主として家庭において伝達されており、中学生はそのような態度に反発する傾向がある。このような理由が一因となっているのであろう。

2. 項目水準における分析結果について

ここでは、各態度得点の変化について、項目水準の分析結果から検討を加える。つぎに、中学および高校の各3年間において、各態度ごとに変化のある項目とない項目についてみていく。

(1) 全般的傾向の項目水準からの検討

まず、男女ともに中学1年から3年にかけて、保守的態度が弱くなるという全般的傾向についてみてみよう。項目水準の分析によると、保守的態度の項目には、学年のあがるにつれ得点の低くなる項目と変化しない項目がある。男女に共通して、学年のあがるにつれ得点の低くなる項目は、9「学校で定めている校則にはどんな場合にも従うべきである」および12「デモやストでさわぐのは民主国家の恥である」の2項目である。このほか、男子で得点の低くなる項目は、11「日本は天皇を中心にとまらすべきである」の1項目である。女子では、1「国の政治は政治家にすっかりまかせた方がよい」、6「長男が家をつぐのは当然だ」および13「家庭では父親がすべての実権をにぎるのが望ましい」の3項目である。このように、男子では3項目の、女子では5項目の得点の変化が、この全般的傾向に反映しているといえる。

つぎに、中学3年から高校Ⅲ年にかけて、男子は女子より保守的傾向が強いという全般的傾向についてみてみる。項目水準の分析から、中学3年から高校Ⅲ年にかけて男女差がみられる項目は、2「女が政治などに口だしすべきでない」、6「長男が家をつぐのは当然だ」、8「目上の人にはもっと敬語を使った方がよい」および13「家庭では父親がすべての実権をにぎるのが望ましい」の4項目である。そのうち、2, 6および13の3項目において、男子は女子より得点が高い。一般に女子の方が男子より保守的であるといわれており、それと本研究の結果は矛盾しているように見える。しかし、男子が女子より得点の高い2, 6および13の3項目は、いわゆる男子中心的な因襲・価値観についてのものである。吉森(1974, 1975)は、大学生の保守主義を検討するなかで、全般的に男子より女子の方が保守的であるものの、わが国に伝統的な男子中心的な因襲・価値観では女子は男子より急進主義的ですからあると述べている。男子は女子より保守的傾向が強いという結果は、女子が男子中心的な伝統的・因襲的価値観に反発していることによるものと思われる。このことは、項目23「家庭内の仕事は男女平等に

分担すべきである」において、中学1年から高校Ⅲ年まで一貫して、女子は男子より得点の高いことから裏付けられる。

また、大衆社会的態度は、男子では中学2年および3年で1年より強くなり、女子では高校Ⅱ年およびⅢ年で1年より強くなる。この傾向はどのように理解できるであろうか。男子において、項目水準の分析から、33「誰が衆議員の選挙で当選しようとする日本の政治はかわらないと思う」、35「共同募金や歳末助け合い運動があるとなるべくさけるようにする」、36「ベトナム戦争など日常生活とかけはなれた政治問題など考えるのはめんどろだ」および37「いつの世でもお金がなければ幸福にはなれない」の4項目で、学年のあがるにつれ得点が高くなっている。また女子では、35、36および37の3項目で、学年のあがるにつれ得点が高くなっている。これらの項目は、第Ⅱ報(久世ら、1980)でおこなった因子分析において、政治的無関心因子と名づけられた項目の中にすべて入っている。そして、その報告のなかで、大衆社会的態度は他人への同調性を中心とした「大衆社会的態度項目群」と政治的無関心を中心とした「権威主義的一政治的無関心項目群」とにわかれていることを指摘している。大衆社会的態度の傾向は、このような政治的無関心項目群における変化が反映しているものと思われる。

(2) 変化のある項目とない項目についての検討

1) 中学3年間について

まず保守的態度項目において、男女ともに変化のある項目は、9「学校で定めている校則にはどんな場合にも従うべきである」と12「デモやストでさわぐのは民主国家の恥である」の2項目であり、ともに学年のあがるにつれ得点が低くなっている。項目9の結果は、固定した規則や与えられた社会的秩序を維持しようとする段階から他者との合意や契約によって法則などは変更できるとする段階へ移行していく、というKohlbergの道徳性発達の6段階と対照させて考えてみると興味深い。項目12は、「賛成とも反対ともいえない」から「反対」の方向へ得点が動いている。毎年恒例のように行なわれる春闘でのデモやストは、テレビ・新聞などのマス・コミによって報道され、一時的にせよデモやストに対する認識が社会的に高まる。そのような状況の中で、中学生が労働者に対する理解を深め、デモやストに対する認識をひろげることが考えられる。

その他、保守的態度項目のなかでとくに変化している項目は、女子での6「長男が家をつぐのは当然だ」と13「家庭では父親がすべての実権をにぎるのが望ましい」の2項目である。このいわゆる男子中心の価値観に対して、女子は学年のあがるにつれ「反対」の方向へ得点を

変化させている。

保守的態度項目で、男女ともに変化のない項目は、4「伝統や習慣は尊重すべきである」、8「目上の人にはもっと敬語を使った方がよい」および10「世の中の秩序を守るために上下関係はなくてはならない」の3項目である。男女とも、項目4および8の反応はやや「賛成」の方向にあり、また項目10の反応は「賛成とも反対ともいえない」のところにある。

つぎに、革新的態度項目において男女ともに変化のある項目は、14「個人の自由は尊重すべきである」、19「デモやストをするのは労働者の当然の権利である」および20「先輩の意見でも、まちがっていると思えば、納得できるまで議論する」の3項目である。項目14では、中学1年および2年は「賛成」であるが、中学3年は「非常に賛成」の方向へ得点が動いている。中学3年になって、「社会科」の「公民」に関する授業などを通して、この考え方により賛意を示すようになると考えられる。項目19では、「賛成」の方向へ得点が増加しており、前述した項目12の場合と同様に、デモやストに対する認識のひろがりを感じさせる。項目20では、「非常に賛成」から「賛成」の方向へ得点が動いており、学年のあがるにつれ、先輩との関係を柔軟に考えようとしているのであろう。この変化の傾向は、高校の3年間でもみられ、対人関係を円滑に営もうとする姿勢のあらわれと考えられる。

その他、革新的態度項目のなかで、目立つ変化をしている項目は、女子での25「結婚式などの儀式はなるべく簡素化するのがよい」の1項目である。学年のあがるにつれ、「賛成とも反対ともいえない」から「賛成」の方向へ得点が動いている。

革新的態度項目で、男女ともに変化のない項目は、18「いくら伝統だからといっても不合理なことはやめるべきである」、23「家庭内の仕事は男女平等に分担すべきである」および24「『方角が悪い』などということはまったく信用しない」の3項目である。項目18では、男女とも「賛成」に近い得点(3.7)で変化がみられない。項目23では、男子は「賛成とも反対ともいえない」(2.9)という反応で、女子はやや「賛成」(3.3)という反応である。項目24では、男女とも「賛成とも反対ともいえない」という反応である。

大衆社会的態度項目において男女ともに変化のある項目は、33「誰が衆議員の選挙で当選しようとする日本の政治はかわらないと思う」、34「今の世の中では平凡な家庭の中にささやかな幸福を求めた方がよい」、35「共同募金や歳末助け合い運動があるとなるべくさけるようにする」および37「いつの世でもお金がなければ幸福にはなれない

い」の4項目である。項目33では、やや「反対」(2.8)からやや「賛成」(3.2)の方向へ得点が動いており、政治に対する期待が薄れ、不信となげやりの態度がみられるようになる。項目34では、「賛成」から「賛成とも反対ともいえない」の方向へ得点に変化しており、小市民的なマイホーム主義に賛同を示さなくなることがうかがわれる。項目35では、「反対」から「賛成とも反対ともいえない」の方向へ得点に変化しており、共同募金や歳末助け合い運動について態度をきめかねるようになる。項目37では、男子は「反対」から「賛成」の方向へ、女子は「反対」から「賛成とも反対ともいえない」の方向へそれぞれ得点を変化させている。この結果は、かれらが現実的な考え方を肯定するようになることを示している。

大衆社会的態度項目で、男女ともに変化のない項目は27「流行語などはよく知っていないとはずかしい」、29「みんなが見ているテレビ番組を見ていないと、とりのこされる気がする」、30「国の法律が望ましいものかどうか考える必要はない」、32「理論よりフィーリングやムードが大切である」および38「皆と同じような持物や服装をしていないとひげめを感じずる」の5項目である。これらの5項目は、「賛成とも反対ともいえない」から「反対」の間で変化がみられない。

中学3年間一貫して男女差のある項目は、2「女が政治などに口だしすべきでない」、6「長男が家をつぐのは当然だ」、23「家庭内の仕事は男女平等に分担すべきである」、29「みんなが見ているテレビ番組を見ていないと、とりのこされる気がする」および35「共同募金や歳末助け合い運動があるとなるべくさけるようにする」の5項目である。項目2と6において、男子は女子より得点が高く、女子は男子中心の伝統的価値観に反発する。項目23の反応は、男子では「賛成とも反対ともいえない」であるが女子では「賛成」の方向(3.3)であり、家庭の仕事は男女平等に分担すべきであると考えている。項目29では、女子は男子より得点が高くなっている。この項目は、大衆社会的態度項目のなかでも同調的傾向と深い関わりのある項目である。われわれは、社会的態度の変容過程に注目して、被調査者をQモードクラスター分析によりグループ化したところ、大衆社会的傾向の強いグループの大半は女子であるという結果を得ている(久世ら1979)。このことから、女子は男子より同調傾向が強いといえよう。項目35では、男子は女子より得点が高い。この項目は、男女ともに学年のあがるにつれ得点の高くなる項目である。共同募金や歳末助け合い運動に対して、男女とも態度をきめかねるようになるが、その傾向は男子において強いといえる。

2) 高校3年間について

保守的態度項目では、男女ともに変化のある項目はない。しかし、項目10「世の中の秩序を守るために上下関係はなくてはならない」では、男子は「賛成とも反対ともいえない」から「賛成」の方向へ変化する。また項目8「目上の人にはもっと敬語を使った方がよい」では、女子は「賛成とも反対ともいえない」から「賛成」の方向へ変化する。これらの項目は、表現は異なるものの年長者を尊重しようとするものである。

保守的態度の項目のうち、男女とも変化しない項目は、2「女が政治などに口だしすべきでない」、3「結婚は家柄を重んじなければならない」、5「世間をわたるには義理や人情が最も大切である」、6「長男が家をつぐのは当然だ」、7「親孝行は子どもの義務である」、9「学校で定めている校則にはどんな場合にも従うべきである」、12「デモやストでさわぐのは民主国家の恥である」および13「家庭では父親がすべての実権をにぎるのが望ましい」の8項目である。保守的態度項目の多くが高校の3年間であまり変化しないのは、すでに保守的な考え方に対する態度が形成されており、高校の3年間で安定するからであるとも考えられる。

革新的態度項目のなかで、男女ともに変化する項目は、20「先輩の意見でも、まちがっていると思えば、納得できるまで議論する」と25「結婚式などの儀式はなるべく簡素化するのがよい」の2項目である。項目20では、「賛成」から「賛成とも反対ともいえない」の方向へ得点が動いており、中学3年間の場合と同様に、先輩との関係を柔軟に考えるのであろう。項目25では、「賛成」の方向へ得点に変化しており、学年のあがるにつれこの意見に賛成する傾向の高まることがわかる。

その他、革新的態度項目のなかで、目立つ変化をしている項目は、女子での23「家庭内の仕事は男女平等に分担すべきである」の1項目である。学年のあがるにつれ「賛成」の方向へ得点に変化しており、女子は男女平等を主張するようになる。

革新的態度項目で、男女ともに変化のない項目は、14「個人の自由は尊重すべきである」、15「正しいことであれば世間体など気にすべきでない」、18「いくら伝統だからといっても不合理なことはやめるべきである」、21「男女の交際は全く自由であり、まわりの人がとやかく言うべきでない」および22「政治をよくするためには、もっと進歩的な人から多くの代議士を選出すべきである」の5項目である。項目14は、「賛成」から「非常に賛成」の間の反応である。項目15、18、21および22の4項目は、「賛成とも反対ともいえない」から「賛成」の間の反応である。

大衆社会的態度項目において男女ともに変化のある項目は、35「共同募金や歳末助け合い運動があるとなるべくさけるようにする」と39「公害問題は被害者と加害者だけの問題である」の2項目である。項目35では、「反対」から「賛成とも反対ともいえない」の方向へ得点に変化している。この傾向は中学3年間でもみられている。学年のあがるにつれ、共同募金や助け合い運動のような pro-social な行動に対し、はっきりとした態度をとれなくなっていくことがわかる。項目39では、「非常に反対」から「反対」の方向へ得点に変化しており、公害問題は当事者だけの問題であるという考え方を否定する傾向が薄らいでいる。

その他、大衆社会的態度項目のなかで、目立つ変化をしている項目は、女子の36「ベトナム戦争など日常生活とかけはなれた政治問題など考えるのはめんどうだ」と37「いつの世でもお金がなければ幸福にはなれない」の2項目である。項目36では、「反対」から「賛成とも反対ともいえない」の方向へ得点が動いており、政治的無関心の傾向がでてきている。項目37では、「賛成とも反対ともいえない」から「賛成」の方向へ得点が動いており、現実主義の傾向がみられる。

大衆社会的態度項目で、男女ともに変化のない項目は、28「労働者や大学生のストライキやデモ活動などは関心がない」、31「中・高校生の時代には政治の問題など考えるよりレジャーを楽しんだ方がよい」、32「理論よりフィーリングやムードが大切である」および33「誰が衆議員の選挙で当選しようと日本の政治はかわらないと思う」の4項目である。項目28、31および32の3項目では、「賛成とも反対ともいえない」という反応であり、これらの態度にはっきりとした意見をもてないでいることがうかがわれる。項目33では、やや賛成（3.4）で変化していない。政治に対する不信感が高校3年間においてもみられている。

高校3年間一貫して男女間に差のある項目は、9項目である。この項目数は中学より多く、高校3年間で男女間の違いがはっきりしてきていることを表わしている。2「女が政治などに口だしすべきでない」、6「長男が家をつぐのは当然だ」ならびに13「家庭では父親がすべての実権をにぎるのが望ましい」の3項目で、男子は女子より得点が高い。これらの項目は男子中心の伝統的・因襲的価値観に関するものであり、男子が女子よりこうした態度を容易にうけいれ、女子がこの考え方に反対していることがわかる。また、これに関して、項目23「家庭内の仕事は男女平等に分担すべきである」では、女子は男子より得点が高い。女子が男女平等という意見に賛成しているという結果は、上に述べた女子が男子中心の価

値観に反対しているという結果と対応している。項目8「目上の人にはもっと敬語を使った方がよい」では、女子は男子よりこの意見に賛成する傾向があり、言葉づかいなどに気を配るようになっている。項目21「男女の交際は全く自由であり、まわりの人がとやかく言うべきでない」では、男子は女子より賛成する傾向があり、まわりの人から干渉されるのをいやがっていることがわかる。項目24「『方角が悪い』などということはまったく信用しない」では、男子は女子より得点が高い。女子は、男子にくらべ迷信や占いを信じる傾向があるのであろうか。項目25「結婚式などの儀式はなるべく簡素化するのがよい」では、男子は女子より得点が高い。この項目において、女子は学年のあがるにつれ得点を「賛成」の方向へ変化させているが、まだ男子と同じ得点にはなっていない。項目35「共同募金や歳末助け合い運動があるとなるべくさけるようにする」では、中学3年間の場合と同様に、男子は女子より得点が高い。この項目では、男女ともに学年のあがるにつれ「反対」から「賛成とも反対ともいえない」の方向へ得点に変化している。このことから、男女とも募金や助け合い運動に対しはっきりとした態度をとることができなくなっていくけれども、男子の方がより態度をきめかねているといえる。

3) まとめ

これまで項目水準における分析結果について検討を加えてきたが、最後にこれらをまとめてみよう。

中学の3年間において、男女ともにデモやストなどに対する考え方を通してしだいに社会認識をひろげていく。また、定められた規則や社会秩序を維持しようとする段階から契約によって規則は変えられるとする段階への移行がみられ、個人の自由が尊重されるようになる。さらに、先輩との関係などの人間関係がまずくならないような処世術を身につけ、お金がなければ幸福にはなれないという現実主義的な面をみせはじめ。政治に対する不信、諦念がみられ、prosocial な行動に対しはっきりとした態度がとれなくなる。女子は男子より大衆社会的な同調傾向がみられるものの、男子中心の伝統的・因襲的価値観に対し強い抵抗を示し、男女平等を主張するようになる。

高校3年間では、男女ともに、年長者を尊重する気持ちが強くなり、人間関係を円滑に営むようになる。ただ、共同募金や助け合い運動などの pro-social な行動に対しますますはっきりとした態度をとることができなくなり、男子は女子よりその傾向が顕著である。高校3年間において性差が多くみられるようになり、男子は男女交際についてまわりから干渉されるのを嫌う。女子は、男子より迷信・占いを信ずる傾向があり、言葉づかいな

どに気を配るようになる。また、女子は、中学よりはっきりと男子中心の伝統的・因襲的価値観に強い抵抗を示し、男女平等を主張する。

以上のように、本研究で得られた結果から、中学の3年間ならびに高校の3年間における社会的態度の発達過程を記述することができる。今後、この発達過程が青年期後期にある大学生の社会的態度とどのようにつながっているのかを検討してみる必要がある。

文 献

- 後藤宗理・久世敏雄・宮沢秀次・二宮克美 1979 大学生の社会的態度に関する研究 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), **26**, 37-53
- 久世敏雄・速水敏彦 1974 中学生・高校生の社会的態度に関する研究(Ⅰ)名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), **21**, 1-11
- 久世敏雄・速水敏彦 1975 中学生・高校生の社会的態度に関する研究(Ⅱ)名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), **22**, 13-24
- 久世敏雄・後藤宗理・宮沢秀次・二宮克美・池田博和・伊藤義美・石黒敬子 1977 中学生・高校生の社会的態度に関する研究(Ⅲ)名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), **24**, 67-83
- 久世敏雄・浅野敬子・伊藤義美・後藤宗理・宮沢秀次・二宮克美・池田博和 1978 中学生・高校生の社会的態度に関する研究(Ⅳ)名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), **25**, 119-129
- 久世敏雄・後藤宗理・二宮克美・宮沢秀次・池田博和・伊藤義美・浅野敬子 1979 中学生・高校生の社会的態度に関する縦断的研究(Ⅰ)名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), **26**, 17-35
- 久世敏雄・後藤宗理・浅野敬子・宮沢秀次・二宮克美・池田博和・伊藤義美 1980 中学生・高校生の社会的態度に関する縦断的研究(Ⅱ)名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), **27**, 65-87
- 久世敏雄・宮沢秀次・二宮克美・後藤宗理・浅野敬子・池田博和・伊藤義美 1981 中学生・高校生の社会的態度に関する縦断的研究(Ⅲ)名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), **28**, 99-149
- 吉森 讓 1974 保守主義に関する研究—大学生の保守主義の構造(Ⅰ) 広島大学教育学部紀要, **23**, 383-394
- 吉森 讓 1975 保守主義に関する研究Ⅱ 広島大学教育学部紀要, **24**, 253-261

(1981年7月31日 受稿)

A LONGITUDINAL STUDY OF SOCIAL ATTITUDES OF ADOLESCENTS (IV)

Toshio KUZE, Katsumi NINOMIYA, Shuji MIYAZAWA, Motomichi GOTO,

Keiko ASANO, Hirokazu IKEDA, and Yoshimi ITO

We have obtained the longitudinal data on the social attitudes of students in the secondary and high school education through past 8 years. For the present study, sets of data were picked up so that a year-to-year matching of the subject throughout the secondary school years and/or high school years would be established. Examination was made on how the social attitudes of students develop in the secondary school education and/or high school education during three years. We also examine the changes of attitudes on the item-by-item basis in the questionnaire.

The social attitudes for the present study consist of three scales: conservative, radical, and mass-social. Each scale contains 13 items. The subjects are boys and girls in upper and lower secondary school affiliated to the Faculty of Education of Nagoya University. The longitudinal data were obtained by monitoring once a year the same group of students. The perfectly matched data through three monitoring points during the secondary school were obtained from 351 students (178 boys and 173 girls), who started the secondary school in different years (in 1972, 1973, 1974, 1975, 1976, and 1977) and graduated the secondary school 3 years later (in 1974, 1975, 1976, 1977, 1978, and 1979). Similar perfect data were obtained during high school from 527 students (275 boys and 252 girls), who started the high school in different years (in 1972, 1973, 1974, 1975, 1976, and 1977) and graduated the high school 3 years later (in 1974, 1975, 1976, 1977, 1978, and 1979).

Major results of the analysis are summarized as follows.

A. The general tendency of the development of social attitudes:

(1) The conservative attitude tends to become weak from the first grade to the third grade (Table 2). (2) The sex difference is found in the conservative attitude; boys start to show higher scores from the third grade to the sixth grade in comparison to girls (Table 2, 9). (3) For the mass-social attitude, the scores of the second and third graders are higher than those of the first graders in boys, whereas the scores of the fifth and sixth graders are higher than that of fourth graders in girls (Table 3, 10). (4) For each of the three social attitude scales, correlation coefficients calculated across three monitoring periods remained significantly high level (Table 3, 10). (5) Within each grade, the conservative attitude is found negatively correlated with the radical attitude at the significant level. On the other hand, the correlations between conservative and mass-social scales are significantly positive (Table 4, 11). (6) The significant negative correlations are found between radical and mass-social scales for boys across the third to sixth grades. For girls the same pattern is observed across the fourth to sixth grades (Table 4, 11). (7) The fluctuations of each attitude score are small in boys and girls, but boys' fluctuations of each attitude score are larger than girls' (Table 5, 12).

B. Results of analysis on the item-by-item basis:

(1) All subjects tend to comply items which indicate a tendency of political indifference (Table 6, 13). (2) With age increasing, all subjects tend to show a dubious attitude to the items which describe the prosocial behaviors such as fund-raising and relief campaign activities (Table 7, 14). (3) Girls show objections to items which state the male-centered traditional and conventional values (Table 8, 15).